Yokohama Arts Foundation

記　者　発　表　資　料

令和　４年１月１７日
(公財)横浜市芸術文化振興財団
横浜市民ギャラリーあざみ野

カメラの歴史をテーマにコレクション約150点を紹介

あざみ野フォト・アニュアル２０２２

横浜市所蔵カメラ・写真コレクション展

視る装置　19～20世紀のカメラの変遷

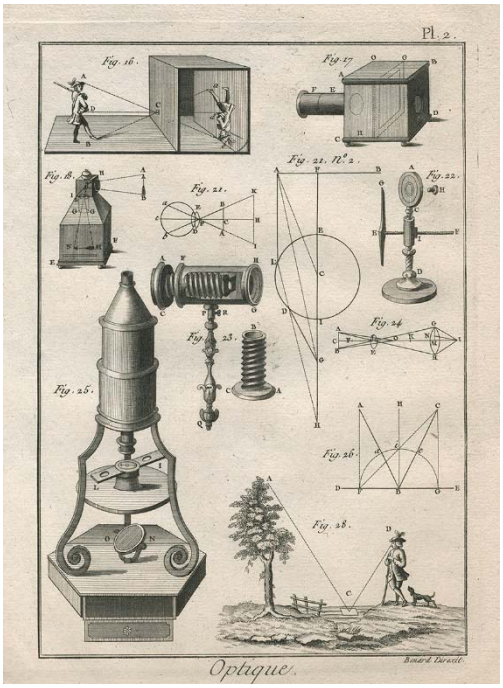
The Collection of Camera and Photography of the Yokohama City: Viewing Device History of the Camera in 19th and 20th Centuries

今年のコレクション展はカメラが主役！
技術を革新したカメラや同時代の写真を通じて「視る装置」としてのカメラの進化を探る

横浜市民ギャラリーあざみ野では「あざみ野フォト・アニュアル」と題し、毎年、写真表現の現在を切りとる企画展と横浜市所蔵カメラ・写真コレクション展を同時開催しています。今年度のコレクション展は、カメラの歴史をテーマにコレクション約 150 点をご紹介します。

本展では 19 ~ 20 世紀の各時代の特徴的なカメラや技術を革新したカメラ、同時代の写真、関連資料を通じて、「視る装置」としてのカメラの進化の過程や、写真表現に与えた影響を探ります。

※展示室１で同時開催：
あざみ野フォト・アニュアル2022「中井菜央　雪の刻」



「光学」（『百科全書(分野別）版画選集第7巻』より）／
シャルル・ジョセフ・パンコック編集／1782～1832年

■開催概要

【展覧会名】あざみ野フォト・アニュアル 2022
横浜市所蔵カメラ・写真コレクション展　視る装置 19～20世紀のカメラの変遷
【会　　期】2022 年 1 月 29 日(土) ― 2 月 27 日(日) 30 日間　10:00－18:00　会期中無休
【会　　場】横浜市民ギャラリーあざみ野　展示室２
【料　　金】入場無料
【主　　催】横浜市民ギャラリーあざみ野（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）
【協　　力】日本カメラ博物館、城西国際大学メディア学部、大佛次郎記念館

会期中の関連イベントなど詳細は当館ホームページをご覧ください。
https://artazamino.jp/event/azamino-photo-20220227-collection/

※ぜひ当事業の取材、情報掲載をお願い申上げます。
取材の際は、事前にご一報ください。広報用画像の提供が可能です。

お問合せ先　＊本日は17:30まで在席しております。
横浜市民ギャラリーあざみ野　【公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団】
館長　原田由布子　担当　日比谷安希子　TEL：045-910-5656

あざみ野 フォト・アニュアル

あざみ野フォト・アニュアル２０２２　Azamino Photo Annual 2022

２０２２年1月29日［土］－２月27日［日］

横浜市民ギャラリーあざみ野　展示室２

開場時間 10：00－18：00　会期中無休　入場無料

主催　横浜市民ギャラリーあざみ野［公益財団法人横浜市芸術文化振興財団］

協力　日本カメラ博物館、城西国際大学メディア学部、大佛次郎記念館

横浜市所蔵カメラ・写真コレクション展

視る装置 19〜20世紀のカメラの変遷

The Collection of Camera and Photography of the Yokohama City:

Viewing Device　History of the Camera in 19th and 20th Centuries

THE TIME RULED BY SNOW

中井菜央

あざみ野 フォト・アニュアル

あざみ野フォト・アニュアル 2022　Azamino Photo Annual 2022

2022年1月29日［土］－2月27日［日］

横浜市民ギャラリーあざみ野　展示室 1

開場時間 10:00–18:00　会期中無休　入場無料

主催　横浜市民ギャラリーあざみ野［公益財団法人横浜市芸術文化振興財団］

助成　公益財団法人朝日新聞文化財団

協力　株式会社シグマ、株式会社フレームマン、城西国際大学メディア学部、大佛次郎記念館

Nakai Nao

雪の刻（とき）

横浜市所蔵カメラ・写真コレクション展

視る装置 19〜20世紀のカメラの変遷

The Collection of Camera and Photography of the Yokohama City:

Viewing Device　History of the Camera in 19th and 20th Centuries

今年度のコレクション展は、カメラの歴史をテーマにコレクション約150点をご紹介します。
1839年に世界初のカメラ、ジルー・ダゲレオタイプカメラがフランスで発売されてから、
光学技術の発展やカメラ製作者たちの様々なアイデアによりカメラは進化し、新たな視覚を切り拓いてきました。
初期は木箱にレンズが付いたシンプルな装置だったカメラは、写真の感光材料が
ダゲレオタイプ、湿板、乾板、フィルムへと進化していくのに並行して、
光学計算に基づいたレンズの開発や、厳密な露出時間の調節を可能にする機械式シャッターの採用、
被写体の光量を計る露出計の内蔵、撮影までの諸動作の自動化などによって、複雑な機構を持つ精密機械へと発展していきます。
カメラの機能の向上は、写真家たちに様々な環境で撮影を行うことを可能にし、
機械の眼だからこそ実現できる多彩な表現を生み出しました。
一方で、広い視角、被写体の立体感、動きなどを写し取るための特殊な機構を備えたカメラも開発されます。
これらのカメラは人々に新たな視覚体験をもたらし、写真の用途や楽しみ方を広げていきました。
本展では19〜20世紀の各時代の特徴的なカメラや技術を革新したカメラ、同時代の写真、
関連資料を通じて、「視る装置」としてのカメラの進化の過程や、写真表現に与えた影響を探ります。

［横浜市所蔵カメラ・写真コレクションとは］
横浜は日本における写真発祥の地の一つとして、近代日本の写真映像文化の歴史に大きく貢献したと言われています。
横浜市ではこうした歴史を踏まえ、映像文化都市づくりを進めるため、アメリカのサーマン・F・ネイラー氏が
40年にわたって世界各地から収集したカメラ、写真、写真関連アクセサリー、
資料及び文献のコレクション約1万件を平成5・6年度に取得しました。

左上：汚い坊主（アルフレッド・テニスン）／ジュリア・マーガレット・キャメロン／1865年／鶏卵紙
右上：ワンダー・パノラミック・カメラ／C・P・シュティルン／1889年
左中：「光学」（『百科全書（分野別）版画選集第7巻』より）／シャルル・ジョセフ・パンコック編集／1782–1832年
右中：ローライドスコープ／フランケ & ハイデッケ・ゲーエムベーハー／1926年
左下：ライカ Ⅰ(A)／エルンスト・ライツ・ゲーエムベーハー／1925年
右下：スーパー・コダック620／イーストマン・コダック・カンパニー／1938年

表：カメラ・オブスクラ／製作者不詳／1790年頃

Nakai Nao　THE TIME RULED BY SNOW

中井菜央　雪の刻（とき）

「あざみ野フォト・アニュアル2022」企画展では、写真家・中井菜央の個展を開催します。
中井は、雪をモチーフにしたシリーズを手掛けたいとの思いから、
2015年より毎冬100日を新潟県津南町で過ごして撮影を続けてきました。
2020年6月からは、約1年間津南町に滞在しながら撮影を行いました。
中井が主な撮影地とした津南町と、津南町に隣接する十日町市、長野県栄村は
奥信越と呼ばれ、積雪が多く、世界有数の豪雪地帯です。
中井は、この地域に降り積もる水分を多量に含んだ重たい雪の「個性」に惹かれ、
雪がつくりだす風景・光景、雪国に生きる人々を撮り続けてきました。
本展では、約6年間撮りためてきた複数のシリーズのうち、
初公開となる「雪の刻（とき）」と題されたシリーズを紹介します。
このシリーズは、雪国特有の重層的な「時間」の響きを捉えた写真群です。
中井は、室内と屋外でデジタルカメラを使用して、人々のポートレイトや集落の日常、
厳冬期の轟音をともなう屋根からの落雪、狂喜乱舞のごとく訪れる春、
白銀の世界が緑に置き換わった夏の山や平地、冷涼な空気が早くも雪を予感させる秋というように、
雪によって刻まれた「時間」から生じる気配を看取し、克明に捉えています。
豪雪地帯の「雪」と雪に律せられた「時間」に自らの身体を投じ、
発見と記録に徹した写真家の近年の集大成ともいえる展覧会をぜひご覧ください。

中井菜央（なかい・なお）

1978年　滋賀県生まれ　現在東京都在住
2006年　日本写真芸術専門学校卒業

主な個展	2014年「未明」銀座ニコンサロン（東京）、「未明」大阪ニコンサロン（大阪） 2018年「繍」Roonee 247 fine arts（東京） 2019年「繍」gallery Main（京都） 2021年「破れる風景」農と縄文の体験実習館なじょもん（新潟）
主なグループ展	2019年「KG+SELECT」元淳風小学校（京都） 2021年「人間より大きな世界へ」榕𨻰美術館（上海）
写真集	2018年『繍』（赤々舎） 2022年1月『雪の刻』（赤々舎）刊行予定

表・上：「雪の刻／THE TIME RULED BY SNOW」シリーズより

［関連イベント］

・「雪の刻」対談
日時：2月19日（土）14:00–15:30
出演：中井菜央（企画展出品作家）
　　佐藤雅一（津南町農と縄文の体験実習館なじょもん学芸員）
会場：3階 アトリエ　定員：30名　参加費：500円

・「雪の刻」アーティスト・トーク
日時：2月26日（土）14:00–15:00
出演：中井菜央（企画展出品作家）　聞き手：佐藤直子（担当学芸員）
会場：3階 アトリエ　定員：30名　参加費：500円

・コレクション展ワークショップ「カメラ・オブスクラをつくろう」
日時：2月5日（土）13:30–16:00
講師：野村浩（美術家）　会場：3階 アトリエ
定員：小学生以上15名　※小学校低学年は保護者同伴　参加費：1,000円

・あざみ野カレッジ「横浜市所蔵カメラ・写真コレクションから見るカメラと写真の歴史」
日時：2月11日（金・祝）14:00–16:00
講師：井口芳夫（日本カメラ博物館学芸員）
会場：2階セミナールーム　定員：30名
参加費：カレッジご登録者500円／一般1,000円　※お申込みの際にご登録可能です。

・コレクション担当学芸員によるギャラリートーク
日時：2月6日（日）・20日（日）各日14:00–14:45
会場：展示室2　参加無料・申込不要
解説：日比谷安希子（担当学芸員）

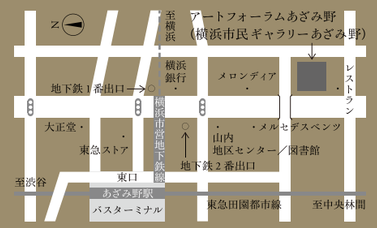
※ 要事前申込（先着順）。
　展覧会ウェブサイト「申込フォーム」からお申し込みください。
※ イベントにご参加の場合、
　1歳6カ月〜未就学児のお子さんの保育利用可
　（有料・予約制／4日前まで）。
※ イベントはやむを得ない事情により、
　変更・中止になる場合があります。

最新の開館状況をご確認のうえご来場ください。

［市内同時期開催の写真展］
写し、写された大佛次郎（おさらぎじろう）
「文士は必ずカメラを持て」
会期：2022年1月6日（木）〜4月17日（日）10:00–17:00（4月以降は17:30）
休館日：毎週月曜（祝休日の場合は翌平日）
観覧料：一般200円、中学生以下無料
会場：大佛次郎記念館2F ギャラリー（横浜市中区山手町113）
問合せ先：TEL: 045-622-5002　FAX: 045-622-5071
http://osaragi.yafjp.org/

［お問合せ］
横浜市民ギャラリーあざみ野（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）
〒225-0012 横浜市青葉区あざみ野南1-17-3 アートフォーラムあざみ野内
TEL 045-910-5656　FAX 045-910-5674
E-mail: info@artazamino.jp　https://artazamino.jp/
SNS［Facebook / Twitter / Instagram］@artazamino

［交通案内］
東急田園都市線「あざみ野駅」東口 徒歩5分
横浜市営地下鉄「あざみ野駅」1・2番出口 徒歩5分
駐車場：27台（有料・予約制）TEL 045-914-5910



beyond 2020　SIGMA